

文 化 財 学 習 会

ふ る さ と 探 訪

テーマ 前田地区の文化財を訪ねる

講 師 千葉 幸伸

(高松市歴史民俗協会会長)

平成 2 7 年 2 月 2 2 日 (日)

共 催 高 松 市 歴 史 民 俗 協 会
高 松 市 文 化 財 保 護 協 会
高 松 市 教 育 委 員 会

1 観音庵



享祿二年（一五二九）に奥州岩崎（宮城県）三万石の城主、黒川四郎右衛門亮氏の孫・黒川四郎右衛門正成によって創建されたと伝えられています。

天正十年（一五八二）に兵火にかかって堂宇はすっかりなくなり、本尊の聖観世音菩薩も背部に大火傷しました。元禄二年（一六八九）黒川卯右衛門忠重が堂宇を復興し、以後、一族から代々尼僧を出して維持してきましたが、現在は無住です。本尊は焼膚やきばた観音と呼ばれ、火傷をした人が祈願すればご利益があると言い伝えられています。

2 前田甚之丞の祠

まえだじんのじょう

前田東町西本村、西本村の集会場横に、甚之丞さんと呼ばれる小祠があります。石造りで、小祠の高さは〇・二メートルです。これが前田甚之丞のお墓だといえます。もとは五十メートル程度北の田んぼの中にあつて、そこが甚之丞戦死の地であると言い伝えられています。

※ 前田甚之丞

前田氏は、文明年中（一四六九〜八七）に、十河城主、十河存春（影滋）^{まさはるかげしげ}の弟、宗存^{むねまさ}が分家し前田西町に城を構えて居城とし、前田頼母頭宗存^{たのものがみむねまさ}と称して、初代城主となりました。大永四年（一五二四）八月、宗存が亡くなって、その子である宗春^{むねはる}が第二代城主となり、天正五年（一五七七）二月、宗春が亡くなって、その子である宗清^{むねきよ}が第



三代城主となりました。これが前田甚之丞です。

甚之丞は、武勇のほまれ高く、弓矢などを携えて、六尺（約一・八メートル）の堀をも飛び越える軽業の持ち主で、ことに弓にかけては百発百中の名人でした。わずかな手勢で、木太町の向城、鬼無町の佐藤城などの諸城を襲い、人を切り殺し財物を奪ったと伝えられています。

天正十年八月、土佐（現在の高知県）の豪族長宗我部元親（ちようそかべもとちか）が西讃・中讃の武将を従えて十河城を包囲攻撃しましたが、城が堅固で容易に落ちず、包囲のまま八月を過ぎていました。

この時、甚之丞は城内で防戦につとめ、また暗闇に乗じてしばしば敵陣に忍びこみ、兵器や糧食を奪い取りました。ある時は敵陣のまただ中、将兵の宿所に侵入して、敵の首を多数打ち取り、ある時は敵の軍馬を奪って帰るなど、包囲軍は甚之丞率いる攪乱隊（かくらんたい）の奇襲にあい苦戦しました。十河城の戦に活躍した甚之丞は、翌年三月二十七日、この戦がまだ終わらないうちに死去し、前田城主は絶えてしまいました。

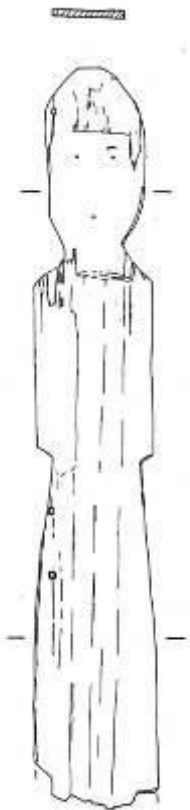
3 前田東・中村遺跡

前田東・中村遺跡は国道十一号バイパス、高松東インターチェンジの建設に伴って調査・発見された遺跡であり、ほぼ全域に遺構が分布しています。縄文土器や弥生土器のほか、古代の遺構・遺物が多く見られ、現在、車が頻繁に行き交う所は、数千年前から人々の生活の舞台であつたことがわかります。

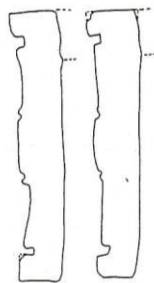
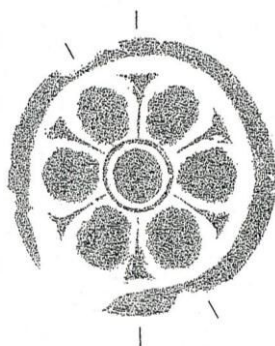
大型の掘立柱建物跡が検出されたことや、帯金具・墨書土器・瓦の出土から、付近に郡衙ぐんがなどの公的施設が存在した可能性が高く、遺跡の東端で検出した川跡から祭祀用の斎串ゆぐしや人形木製品が多量に出土していることから、祓所の可能性も考えられています。また、遺跡の北約二百メートルに所在する堂床は宝寿寺の跡と考えられており、その寺域が前田東・中村遺跡まで及ぶ可能性も考えられています。



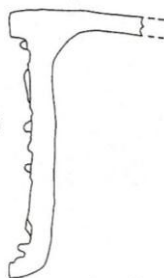
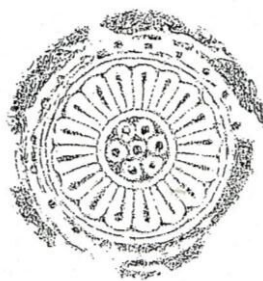
斎串



人形木製模造品



1(F521)



11(E841)

軒丸瓦

前田東・中村遺跡出土遺物実測図

4 前田城跡（市指定史跡）



この城跡は、前田西町穂村の、城山しろやまと呼ばれている低丘陵の尾根先端部に位置しています。ここが前田氏三代の居城跡です。

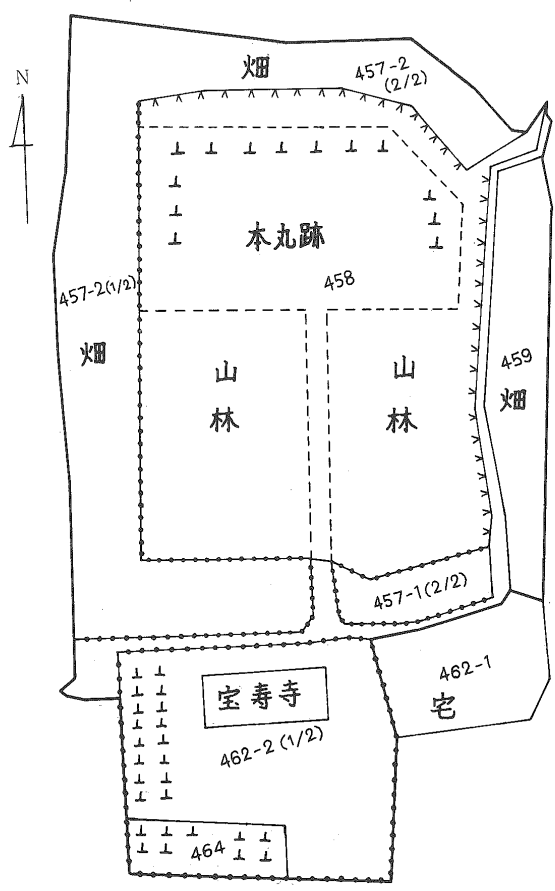
岩滝山から南西に延びる、標高五十メートルばかりの丘陵を利用した平山城で、東西三十六メートル、南北五十二メートルの本丸跡があり、ここは前田氏の墓地になっています。また、本丸跡の周囲には土塁の痕跡が見られ、城の周囲には堀の痕跡が見られます。

本丸跡の南側に、堀跡を隔てて、東西・南北ともに約三十メートルの二の丸跡があります。ここには薬師庵（宝寿寺、法寿寺とも書く・無住）と、墓地があります。

本丸跡の西と南側の石垣と、土橋状の通路は最近のものです。北側には堀を造り、

さらに土塁を高く構えるなど、十分な防備が施されていたようです。

前田城は、文明年間（一四六九〜一四八七）に、十河城主存春（景滋）の弟である前田頼母頭宗存が築城し、二代宗春、三代宗清（甚之丞）と続きました。しかし、天正十年（一五八二）、長宗我部元親の侵攻を受け落城しました。



前田城跡の図（前田郷土史より）



極楽寺記によると、承平六年（九三六）に創建されたと伝えられており、祭神は応神天皇・仲哀天皇・神功皇后です。八幡神社と呼ばれていましたが、「讃岐国宮處郷八幡宮」の宮印が存在することから、由緒を後生に伝える目的で昭和六十一年（一九八六）に宮處八幡宮に改称しました。

平成二十五年十二月二十四日に本殿、拝殿、幣殿、末社護国神社本殿、注連柱しめばしらが国登録有形文化財に登録されました。また、宮處八幡宮正面の石段を上った右側には樹高約十メートル、幹周約一・六メートルのヤマモモがあり、市の名木に指定されています。



末社護国神社本殿



宮處八幡宮本殿



高松市の名木ヤマモモと注連柱

6 西光寺

当寺は、紫雲山安樂院西光寺といえます。天正年間（一五七三～一五九二）に、沙門善性が檀家の助力を得て建立しました。後に兵火にかかり廃寺になっていたのを、現在の地に再建しました。

もとは天台宗に属していましたが、寛文五年（一六六五）興正寺第七代円超上人から西光寺の寺号を下付^{かふ}され、浄土真宗に改宗しました。

7 長妙寺

当寺は、松谷山我浄院長妙寺といえます。讃岐国名勝図会によると、文明年間（一四六九～一四八七）に、沙門玄通が創建したとあります。

その後、天正年間（一五七三～一五九二）に兵火にかかり、しばらく廃絶していましたが、安永年間（一七七二～一七八一）に再興されました。

8 宝寿寺跡（堂床）

前田東町に、堂床^{どうとこ}（お堂のあった跡という意味）と呼ばれている土壇^{どたん}があります。

東西九・五メートル、南北四・五メートル、高さ一メートルの土壇で、今も四個の礎石と見られる直径約一メートルの自然石が残っており、また、ここから重孤文などの白鳳期の古瓦が出土しているので、この堂床を含む地域は宝寿寺跡の一部と考えられています。

極楽寺記によると「承平六年（九三六）九月、諸社に別当を置く、前田・宝寿寺」とあつて、宝寿寺は前田八幡神社の別当でした。

奈良時代に堂床を含む地域に創建された宝寿寺は、永い年月の間に衰退していましたが、鎌倉時代から室町時代の初期に、平尾阿弥陀寺境内に復興されました。その寺跡が阿弥陀寺付近の古瓦出土地です。

平尾阿弥陀寺を含む地域に再建された宝寿寺は、天正年間（一五七三〜一五九二）に兵火にあい、



宝寿寺跡から出土した六葉素弁蓮花文軒丸

（古瓦百選（讃岐の古瓦）より）

伽藍は焼失しました。慶長年間（一五九六～一六一五）に、阿弥陀寺から八百メートル程北西方の、「神櫛王の館舎があった所ではないか」と言われている岡崎の地（宮處八幡宮の東南の丘）に再建し、宝寿寺の寺名を廃して「南向山惣持院押光寺」なんこうざんそうじいんおしこうじと改称しました。

明治二年の神仏分離令により、前田八幡宮の別当であつた押光寺は廃寺になりました。

※別当：神社の世話をするために、神社の中、又は近くにつくられた寺のこと

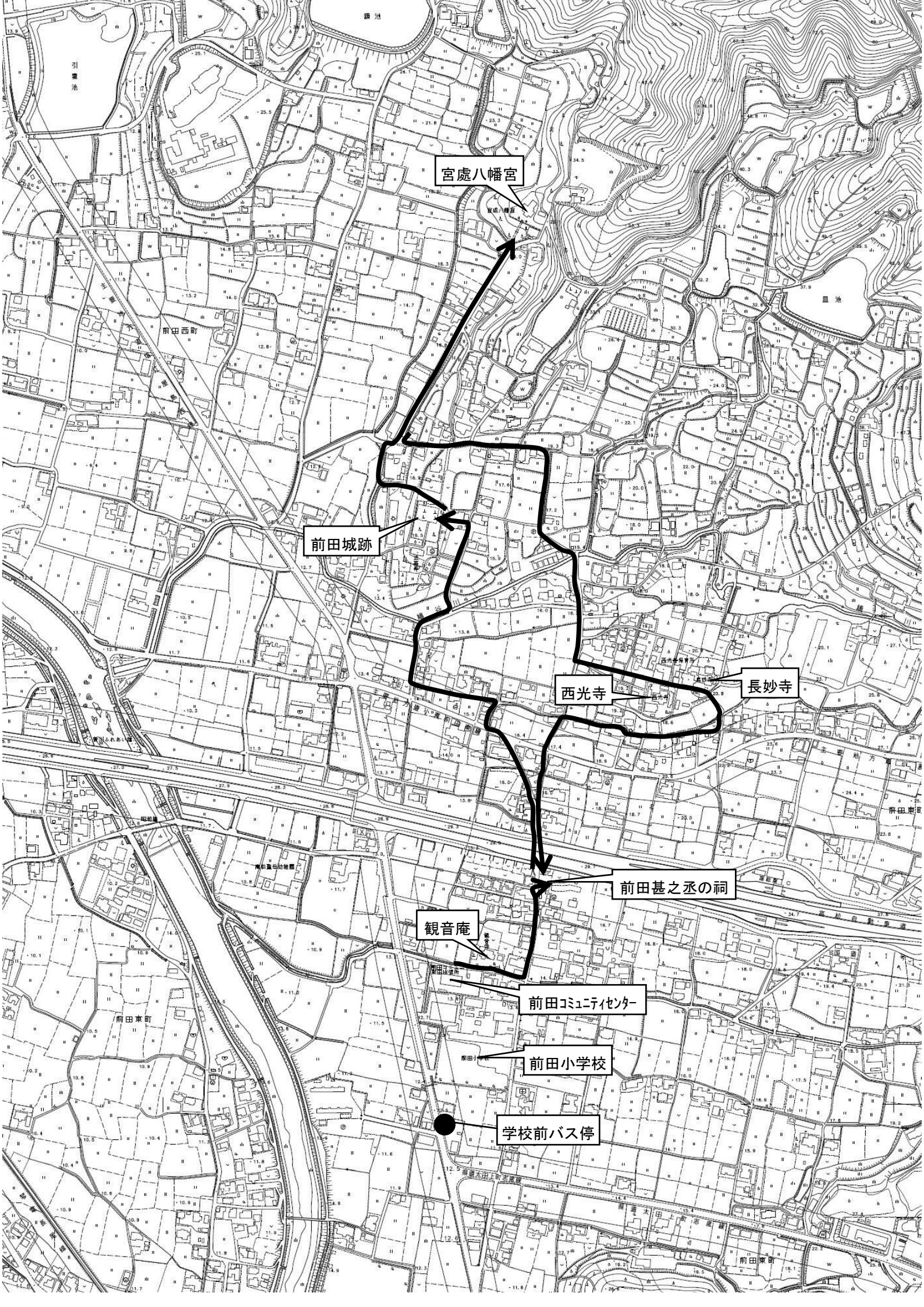
【参考文献】

前田郷土誌編集協議会委員 一九八九『前田郷土誌』前田郷土誌編集協議会
森格也ほか 一九九五『前田東・中村遺跡』香川県教育委員会

前田校区ゆめづくり推進事業プロジェクト 平成二十四年十月

『いろはカルタで見るむかしの前田』前田校区コミュニティ協議会発行

安藤文良 昭和四十九年六月一日『古瓦百選（讃岐の古瓦）』飛鳥書房発行



宮處八幡宮

前田城跡

西光寺

長妙寺

前田甚之丞の祠

観音庵

前田コミュニティセンター

前田小学校

学校前バス停

2月22日（日） 前田西町からの復路

◆ことでんバス＜瓦町・高松駅行き＞

（学校前バス停）		（瓦町バス停）		（高松駅）
12：10 発	→	12：44	→	12：53 着
12：47 発	→	13：21	→	13：30 着

次回のふるさと探訪は・・・

テ ー マ 菅沢町の史跡を訪ねる

と き 平成27年3月15日（日）

9：30～12：00頃

集合場所 東植田小学校菅沢分校運動場

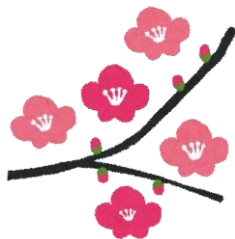
※運動場に駐車できます。

講 師 久保 征四郎さん

（東植田コミュニティ協議会教育文化部長）

☆広報「たかまつ」3月1日号に開催案内を掲載しますので、御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、文化財課
（TEL 839-2660「午前7時30分～開始時間まで」）でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）



「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ



※ 参加中は、次のことに充分留意し、
安全で意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、道路の
端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気をつけましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を
つけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。